



〒892-0841  
鹿児島市照国町13-42  
カトリック鹿児島教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 司祭として生き抜いて50年

## 竹山昭神父が司祭叙階金祝

7月9日(日) 竹山昭神父の司祭叙階50年(金祝)に感謝するミサが、神父が主任司祭を務めるザビエル教会でささげられ、大勢の信者が牧者としての歩みを止めることのなかった神父のこれまでの思いを分かち合った。

1941年長崎県は北松浦郡佐々町に生まれた竹山神

父は、長崎公教神学校、東京カトリック神学院へと進んだ。東京カトリック神学院では、上智大学に通い神学研究科で組織神学などを学び、卒業後は博士課程へ。そこでネメシエギ神父の指導のもと研究を続け、1972年に学位論文「教皇レオ1世に



おける救済論」を提出。翌年、神学博士の学位を取得した。竹山神父が叙階されたのはまだ上智大学で学んでいた1967年7月9日のこと。ザビエル教会で当時の教区長・里脇浅次郎司教から司祭の聖位に上げられた。叙階後も大学で研究を続けていた神父が、鹿児島は鴨池教会に主任司祭として着任したのは1972年5月。以来、司教館勤務、ザビエル教会、司教館代理として本部勤務、紫原教会で司牧を続ける傍ら、鹿児島純心女子短期大学、同女子大学で教鞭を執り、2014年から再びザビエル教会の主任司祭として働いている。

金祝に感謝するミサで200人余りの信徒の前に説教した竹山神父は、この日のマタイ福音書から「イエス自身が用意してくれた靴は、その人に合わせて作られたもの。しかもイエスも背負ったのだ

さる。だから軽い。だがその靴を受け入れるためには謙虚さと忍耐が必要」と解説。その後、50年前の叙階式での思い「わたしは信者たちから呼ばれてここにいる。だから信者たちから「もういいよ」と言われるまで、司祭職という土俵から下りない」を紹介し、その上で「第二バチカン公会議のあおりを受けて揺れ動いていた信者たちの信仰の基礎を固めたいとの願いを持って働いてきた」とこれまでを振り返った。

### 3教区合同黙想会

竹山神父は、信徒の信仰養成のために教区報には「信仰の中の生活」「主よ光を」「イエスの譬え」などを永年

### 2018年手帳・カレンダー(2017)案内

2017年分の手帳、カレンダーにつきましては早い時期での出版社品切れにより、皆様にご迷惑をおかけいたしました。ドンボスコ社製のカトリック手帳(大判・ポケット版)やマンズリープラン、またカレンダー(教皇ランシスコ、祈りの風景、マザーテレサ)にしましては、8月中のご予約をお勧めいたします。

ザビエル書院

### 9月から新約聖書勉強会

日時 第1、第2月 曜日 13時30分～15時  
場所 ザビエル教会  
要理室B  
指導 関根悦雄神父 (イエズス会)  
連絡先 久留 090 (4582) 1824  
※聖書持参のこと

### 会と催し (8月)

- 2日(水) 子ども大会・司教館・4日
  - 3日(木) ルーシン神父命日(1994年)
  - 6日(日) 主の変容
  - 7日(月) 日本カトリック平和旬間・15日まで
  - 11日(金) 小平卓保神父命日(2005年)
  - 13日(日) ザビエル上陸記念祭・9時・ザビエル教会他
  - 15日(火) 聖母の被昇天
  - 20日(日) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
  - 21日(月) 年間第20主日
  - 27日(日) 年間第21主日
  - 28日(月) オリーブの会・教区本部・14時
  - 30日(水) オーパーン神父命日(1988年)
  - 30日(水) ペルリーニ神父命日(2008年)
- 祈りの意向
- 世界共通 芸術家たち
  - 日本の教会 戦争で亡くなった人々

### 【祈祷の使徒会】

大きな恵みをパウロの言葉を通して説明された。そして講師自らの体験を通して「司祭のうちにある弱さと恵み」を準備した資料を読みながら分かりやすく話してくれた。

夜の交流会では、初参加の紹介、25周年を迎えた司祭の紹介などもあり、教区を超えての年に一度の楽しい時間を過ごすことができた。来年は鹿児島教区が担当となる。

### 西日本ソフトボール大会

5月22日(月)、大分に80人を超える聖職者が集まって「西日本司祭・助祭ソフトボール大会」が開催された。鹿児島からは初参加で大分教区の助っ人として2人の司祭(泉、貴島)が参加した。会場には若手から80に近い先輩まで集っていた。参加したのは大分、広島、高松、福岡、長崎、大分教区から司祭、助祭、修道士、司教たち。初参加で少々雰囲気は飲まれながらもキャッチボールで準備。3試合に出場し、1勝2敗。大分・鹿児島連合は3位だった。1位は長崎。2位は福岡。試合後は教区を超えて交流会。これもまた年に一度の楽しみ。初めての参加ではあったが楽しい時間を過ごすことができた。来年は広島教区が担当で、門司で行われることになっている。

### 名瀬聖心教会 8月27日(日) 聖堂改修竣工式・感謝ミサ

受付 13時 竣工式・感謝ミサ 14時  
茶話会 16時(名瀬聖心センター3階)

※献堂から50余年、改修の喜びを共にし、信仰を受け継ぎ、伝えていく決意を新たにしたいと思います。

〒89410025 奄美市名瀬幸町18-1  
TEL 0997 (52) 0339 fax (52) 0441

# たくさんの「ありがとう」を伝えに

## 「レデンプトール会感謝の旅」感想文

### 巡礼の恵みを生かしたい

徳之島教会 順 秀子

感謝の一言に尽きます。夢のような巡礼の旅を終え、無事帰宅できたことにホッとしています。

すばらしい体験がたくさんあり、毎日の中に感動がありました。司教様をはじめ末吉神父様、お二人のシスターの方々から感謝の気持ちでいっぱいでした。本当にありがとうございます。

出発時点から足に痛みがあった私ほど不安でしたが、参加されたみんなの心はひとつで、神様の家族を感謝し、何の心配もない楽しい旅行でした。

バスでの出発時にロザリオのお祈り一環、1日目のハヌス神父様との久しぶり



ハヌス神父様を囲んで

遠い石川の地で40年あまり暮らしています私が今回の「レデンプトール会感謝の旅」に参加できたという事はタマタマと

思っていました。たが、お誘いの声かけこそが神様のお導きであり、大きな恵みであつたと今更ながら感じております。

ドイツは初めて訪問する国で、ミュンヘンの町に降り立った時の緑の美しさ、少し移動するとグリムの昔話を彷彿させるような景色と、初めて見る一面満開を

この度は司教様のおはからいにより、ハヌス神父様のお見舞いとフリヂェル神父様、レヒナ神父様のお墓参りの巡礼に参加できましたこと、心から感謝申し上げます。

和30年代の頃、戦後の復興も本土より10年以上も遅れていると言われていた徳之島、電気も水道も不足する不便な生活の中で、私たちが信仰の恵みを伝えてくださった神父様方でした。

たくさんの恵みと喜び、何よりも天の御父に守られているという実感にあふれた旅でした。心からの感謝です。

### ハヌス神父様との再会の喜び

石川県 桑原了子

迎えたマロニエの花に感動しました。今回私の一番の目的であったのは巡礼初日のハヌス神父様訪問。神父様とは2008年「ペトロ岐部と187殉教者列福式」参加の時、偶然お会いし、夕食を共にさせてもらったのが最後で、その時の真っ白な髪の毛が印象的だったお姿と、時々くださった電話の声を思い出しながらの道中でした。ミュンヘンから小

一時間ほど離れた郊外で、牧歌的な草原が続く素晴らしい環境の中にその建物はありました。神父様との再会は、笑顔と涙の入り混じった感動的なものでした。思っていた以上にお元氣なお姿に安心し、最初はなかなか出てこなかった日本語も、帰る頃には随分お話しも弾み、記憶も少しづつ蘇られていまし

た。司教様のお言葉通り、時々ビデオレターなどで記憶を刺激させてあげるのも一考かと思えました。ぜひ、実現できますように。昼食も一緒に取り、お会いできたことへの感謝のミサは忘れられないものとなりました。

ハヌス神父様をはじめ、次の日の巡礼先のレデンプトール修道会本部訪問で、多くの亡くなられた神父様方のお墓参りをさせてもらいました。遠い異国の小さい貧しい鹿児島で、全生涯をかけて神様の愛の

福音を広め、私たちを導いてくださった神父様方に、改めて感謝すると共に今回の巡礼に参加することができた幸福をしみじみと感じております。

今回の巡礼先で、もう一つ忘れられない場所はダツハウ強制収容所とそこに隣接して創立された女子カナル会修道院訪問でした。ナチスによる迫害に屈することなく命を落とされた強制収容所には、多くの神父様方の写真もあり胸が痛みました。そしてこの残酷行為の地を祈りの場として奉仕されているシスターたちと共に祈りの時間を頂いたことと、一人の日本人のシスターが私の所属する教会

ダツハウの収容所ではカメル会修道院でミサにあらずかり、日本人のシスターもお会いできました。この収容所にはユダヤ人だけでなく、ドイツ人も大勢いたという事に驚きました。

たくさんの恵みと喜び、何よりも天の御父に守られているという実感にあふれた旅でした。心からの感謝です。

寄付によって、島には10数カ所に教会が建ちました。ドイツの方々には休暇で帰国の状況を聞き、日曜日には3度の食事を二回にして、一回分をテーブルに置いたコップの中に入れ、そのお金を献金してくださったと聞いております。

これらのごへの感謝の旅は、本当に実りあるものでした。

### 徳之島の恩人の国ドイツ

徳之島教会 浜田 スミ子



# 祈りに満ちた巡礼の旅を終えて

徳之島教会 向井康美

このたびは、神父様方への感謝のための巡礼ということ、主人と共に参加させて頂きました。

ハヌス神父様を訪問した際に、皆様のとて嬉しうなお姿を見て、またお墓参りを通して、神父様方のこれまでの活躍や皆様との想い入れ、絆がどれほど深いものかと想像しておりました。ハヌス神父様の部屋には日本の国旗が飾られており、それがとても印象的でした。神父様のご多幸をお祈り致します。

私は、巡礼というものを初めて体験しました。人生の中で、こんなにたくさんお祈りやミサをしたことはありませんでした。一日の

始まりが、皆さんと一緒に祈りをすることから始まりました。一日を無事に過ごせるよう祈ること、誰かのことを思いながら祈ること、感謝の気持ちを祈ること、このお祈りがとても大切で素敵なことだと感じました。

## 司教執務室便り 奄美でのユーキヤット



先月八日土曜日午後六時、名瀬聖心教会二階の要理室に集まったのは高校一年生五人と支えの大人五人。奄美初のユーキヤット（若者用要理）のこと。前者は今年春の長崎巡礼に参加した五人で、大人五人は奄美の宣教を考える会の青年部と有志達。

発端となったのはマリア教会での堅信式。この子供たちが奄美でのユーキヤット生第一号になると主任司教に話して協力を仰いだのが今年の二月だったか。予定の初回は学校の行事と重なり青年部の数人だけになったがそれでも実施。いづれこの人たちがリーダーとなって島の若者たちの信仰養成に寄与してもらいたいと思っただけだ。

こうして、実質的な初回となった先月九日のブイジュ祭前日午後六時、支えの五人が待つ要理室に部活を終えた本命の五人が汗を拭き拭き次々と入ってきた。早速、入門として、「YOUCAT」ができ

ました。温かいおもてなしにも感謝の想いです。

この旅の間、とても心穏やかに過ごすことができました。ハプニングもありましたが、それも楽しめ、旅の思い出となり



## たくさんの感動をありがとう

谷山教会 東 正雄

お世話になった神父様、シスター、訪問先で出会った方々に感謝致します。そして、この巡礼で出会った皆様に、またいつかお会いできることを楽しみにしています。素敵な旅をありがとうございました。

まずこの計画をして下さった司教様に感謝申し上げます。お世話くださった末吉神父様、現地ではシスターモニカ、シスター澤のお二人に感謝いたします。鹿兒島出発時は手続きに手間取りハラハラしましたが、なんとか無事に羽田に着き皆さんと合流してドイ

ツへ出発できました。ミュンヘンではシスター二人とモニカ神父様が迎えてくださり、すぐバスでホテルに向かうことができました。

ホテルで夕食をいただき就寝。二日目の朝、バスでハヌス神父様の所へ。シュツケル神父様の案内とシスターモニカの通訳。着くと玄関でハヌス神父様が出迎えてくださいました。でも言葉が出ないのにびっくりでした。環境の変化ででしょうか、老齢になられると

急な変化で、病気が急に進むと聞きますが、まさにそうかと思うことでした。でも素晴らしい環境の中で、シスターや神父様方の助けで、幸せそうに安心いたしました。どうぞいつまでもお元気で。帰りの巡礼の道も素晴らしいです。この日の夕食は市内のレストランでいただきました。

三日目は早めの出発でガルス男子修道院と女子修道院訪問です。早速、男子修道院では神父様の案内でお墓参りを。前管区長でしたミタマヤ神父様のお兄さんのお墓とボルス神父様、レヒナ神父様、フリチエル神父様の墓をそれぞれお参りしました。院内を見学し教会に入り説明をお聞きし、普段は入ることのできない祭壇下のお墓を見せていただきました。テレビでしか見たことのない所なので感動しました。司教様は昔の説教台に上がられてテストをされた。感動されていました。

ミサの後に美味しい昼食をいただきました。毎日感動でした。女子修道院でもシスター方々が一生懸命おもてなしをして下さり、感謝でした。

四日目はテレビなどでよく出るアウシュビッツのこととはなんとなく知っていましたが、ドイツ国内にはこんなにたくさん施設があったことにびっくりでした。カルメル会のシスターが案内してくださり、また一緒に祈りもミサも捧げることができました。

パパ様が日本にいられた時に「戦争は人間の仕業です」とおっしゃったことが実感した一日でした。五日目はノインシュパンシュタイン城見学です。しばらくバスが進むとハイジの世界でした。歌ったりして賑やかにになりました。お城に着くと雨になりました。皆さんの人で賑やかになりました。まるでベルトコンベアに乗った気持ちでした。感動する間もないくらい

## レデンプートル会の心に触れた旅

紫原教会 平 志津子

レデンプートル会の神父様、シスター方が鹿兒島教区にいらして50年余り、ミュンヘンほどな所だろろうとの思いで5月11日、飛び立ちました。徳之島、鹿兒島、熊本、石川、神奈川と15人の巡礼です。

12日、ハヌス神父様をお訪ねしました。元氣なお姿に安堵、日本語はお忘れのようでした。司教様がハヌス神父様の抱持をされた頃のお話に宣教熱意を感じさせられました。徳之島の方々がハヌス神父様へ来られない方のお祈りやお土産

をお渡ししたり、ハグしたり、握手をしたりするうちに日本語を話し始められました。昼食を一緒にしていただき、ニコニコしていらつしやる神父様で、とても嬉しくなりました。

その後近くにある教会までロザリオをしたり沈黙したりして歩きました。教会についてこの教会のことをお聞きしました。森の中の教会です。たくさんの方がベンチに腰掛けたりしてお祈りしていました。私たちは「マリアさまのこころ」を歌いました。

この国の人々はこういう静かな木々に囲まれた中で静かに祈り、神様と出会うているんですね。

13日、修道院の本部とお墓参り。レヒナ神父さま、フリチエル神父のために祈りました。この修道院の聖堂で、お祈りに支えられて日本へと。鹿兒島教区はこの会

の神父様、シスター方で支えられているのです。感謝の気持ちで祈りました。その後、女子修道院へ。

14日、ダツハウの聖なる血カルメル修道院を訪問。1人の日本人シスターに案内していただき、ドイツで最初にできた強制収容所を

で、近くで昼食をして帰るとき小さなハプニングがあり、皆で祈ったりでした。何事もなくすみました。守護の天使に感謝。素晴らしい二つの教会を見学しました。感動ばかりです。

今日はドイツ最後の日、ガイドさんと地下鉄に乗って市内見学です。中心地は観光客でいっぱいでした。ミュンヘンの始まりとか説明してくださり、教会でミサに与り、皆さんで昼食を頂いて自由行動を。それぞれでショッピングなど楽しみました。

またホテルに戻りバスで空港に。手続きも済みスムーズにいったので感謝でした。皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの感動をありがとうございました。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

見学。いろんなパネルがあり、様子がよくわかりました。ガス室などもあり、胸の詰まる思いでした。「戦争はしないぞ」と祈るばかりでした。

15日ノインシュパンシュタイン城見学。16日ミュンヘンの中心広場でのんびりとときを過ごす。ミカエル教会でミサにあずかる。ドイツ語のミサでしたけれど、ミサは同じ。「主の平和」で心を一つにしました。パイプオルガンの音色に祈ることを忘れてき切ってしまう。アルプスの山々を眺め、草原の広がり、ライラックの花が咲き、美しいミュンヘンでした。感謝。

# 神学生の「僕の長崎への道」

## 日本二十六聖人の道を歩いて (11)

3月7日(月) 三原―西野：約26km

午前6時20分、ミサ。朝食後、短時間の作業。草刈りしたまま放置された草葉をワゴン車後部に積む。後日、アルナルド神父がゴミ集積所まで運ぶのだそう

午前8時50分、三原教会を発つ。

三原の市街地内は旧道を。定屋大橋に出、国道2号線を行く。

きょうは陽気がいい。暑い。半袖Tシャツ一枚だ。納所橋北詰めあたりで休息。旧道に入り本郷を通り、二本松古墳(宗永神社)で国道2号線に。汗だくで峠の登り坂を歩いていくと、畑仕事をしていた年配の男性に呼びとめられる。

「歩いとるんか?」「はい」「どこまで?」「西条を通って、広島に向かいます」「目的地は?広島?」「長崎」「へえー。どこから来た?」「京都」



西条本陣跡で

「京都」  
「ひやー、タフやねえ。おう、水を飲んでいかなか?」  
「この峠を越えたら楽勝や。あとは下りやし、その先はしばらく平坦になるからな」

「光」をめざし  
ザビエルさま苦難多き荒海をひたすら祈りヤジロウ励ます

### 俳句

鹿兒島純心 川上 和  
マラッカに別れを告げしザビエルさまはるかな国の

鮮やかに視界の象ひろがりて白内障の術後の日曜日  
先月号の訂正短歌  
雨止みて光射しそめ列福のミサの祈りは深く胸にせまりぬ(前田様の短歌が6月号では「胸」が「脳」となっておりまし)

鳴池教会 前田儀子

### 短歌

鹿兒島純心 川上 和  
マラッカに別れを告げしザビエルさまはるかな国の

## KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 8月号

朝から蝉がうるさく鳴いて、今年もまた沖繩・広島・長崎・敗戦と歴史をたどる夏が来ました。今、与党自民党は憲法9条改正を見据えています。しかし、そもそもなぜ憲法改正したいのでしょうか? 「憲法が今の現実に合わないから?」「アメリカからの押し付け憲法だ

ば、このやや急峻な傾斜も領ける。舗装さえしていなければ、その趣きは完全な山道である。山道の途中、せせらぎを聞きながら、足を休める。はや汗だくだが、きのうより気温は低いだろう。風が吹けば、汗が冷えて肌寒い。おやつとして、きのうの昼食の残りのクリームパンを頬張る。何気なく包装紙裏面の添加物一覧を見、呆然。何と数多の薬品であることか。

超恵寺あたりで旧道に。山陽新幹線の竹原トンネルを越える峠道だ。次第に道は狭まりふたたび、舗装さえしていなければ、いかに山道といった風情に。きのう、西野までとしたのは正解だった。ここまで越えた二つの峠は街灯もない。あのまま歩き続けていたら途中、日も暮れたにちがいない。危険きわまりなかった。峠から、白鳥山だろう、ぼつんとごちんまりとした山容が、近景の山道とも相俟って、情趣深く見える。やがて下り坂の向こうに、西条の市街地が。西条市街地を抜ける旧道を西へ。途中、国道と交わるが、友待橋でふたたび旧道へ。川を渡り、田を抜け、きょう三つ目の峠道へ。断崖に連なるかな住宅街の坂道を登る。やがて飢坂に。舗装されていない、土も露な小道。これこそ本当の山道だ。俄然、気分も盛り上がる。きょう、三たび汗だくとなって歩む。峠

から?」「この憲法では日本を守れないから?」「日本カトリック司教協議会会長の高見三明大司教は、平和句間にあたって7月12日の談話の中で、安倍晋三首相の「憲法9条に自衛隊の存在を明記したい」という考えに対して懸念を示しています。『これまでも「自衛隊のため必要最小限度を越えない実力」を有する部隊と説明され、防衛予算や軍事行動に厳しい制約を課せられていた自衛隊は「軍隊」となり、『陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない』と定める第9条第2項が効力を失うことになり

かねない」と。憲法前文や9条に謳われる平和理念と安全保障の現実の間で、人々は迷っています。その背景には日本全体を包む不満や不安があります。人間は不安を感じると、その裏返しとして勇ましい態度を取りたくなり、不安を一気に払しょくしてくる何かすがり付こうとします。しかし、例えば西部劇で「腰抜け!」と挑発されて勇ましく最初の一発を撃つた人は生き残れるのか? それはわかりませぬ。むしろ「おい、みんな銃を降ろせ」と言う勇氣こそ必要で、それが先の大戦への反省です。「戦争には勝者はいない」と言われるほどの悲惨さをよそに、戦争で莫大な利益を得る人たちがいます。さらに巨額の投資を行う国際金融資本家の利益はもつと莫大です。2014年以降、政府は武器輸出三原則に代わり防衛装備移転三原則を制定し、「武器」を「装備品」と言い換え、きな臭さを拭い去り、武器輸出を拡大しようとしています。憲法12条の前段には「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」とあります。これは私たちの信仰の姿と似ています。洗礼を受け

午前9時、出発。田万里川沿い、国道2号線を右手向こうに見はるかしながら、旧山陽道(田万里往還)を歩く。長閑な田舎道。堀坂道(高屋溝口への間道)あたりから登り道に。右手向こうの、国道2号線が葛折りに上昇するさまを見れば、またもしあれといずれ合流することを思え

これ物流ゆえだ。長持ちしなければ運べない。きのうの昼に食したサンドウイッチが、いまここで作られたばかり、出来たてほやほやと言わんばかりに装ったそれが、「姫路工場製造」とあって驚いたのを思い出した。他県から運んでくるのだ。僕たちは完全に牛耳られている。まるで囚人のごとく、高度に管理統制された産業システムに。坂道を登りきる。しばらくは国道を行く。

を越えると、新興住宅街らしき中に出た。そこから、思っていたより、八本松駅は遠かった。雲行きが怪しい。きょうの宿泊先、東広島教会(ナミユール・ノートルダム修道女会)に辿り着く頃、雨となった。

午前6時。きょう、修道院ではミサがない。朝の祈りのみ。生憎の雨、しかも本降り。だが、少しでも前進しておきたい。地図を遺失。回収するも一時間余りのロス。出発が午前10時半過ぎとなる。土曜日に尾道まで共に歩いたFさんが一緒。「サンティアゴ・デ・コンポステラの道を歩くためのトレーニングとして、足手まといでなければ」との申し出。今夏を目指してのこと

信仰に入った私たちが、日々祈り行動しなければ、いただいた信仰の命は失われます。つまり私たちの信仰は私たちの生き方にかかっています。「わたしたちの罪ではなく教会の信仰を顧み、おことばの通り教会に平和と一致をお与えください」とミサ毎に祈るように、神さまの導きを願っています。(本村裕之)

定例会の案内 (毎月第3土曜日) 日時 8月19日(土曜日) 13時~15時 場所 教区本部 内容 ①主の祈り②情報交換③脱原発の思想とキリスト教

(続く)